

所 属	立花地域課
所属長	中村 直樹
電 話	06-6427-7770

ハンセン病問題を考える～瀬戸内に浮かぶある島から～

尼崎市では、3月5日に立花南生涯学習プラザで、ハンセン病問題に対する理解を深めてもらうため、国立療養所邑久光明園のソーシャルワーカーである坂手悦子氏を講師に招き、講演会を開催します。

本講演会は、現在療養所の入所者と関わるソーシャルワーカーとしての視点からハンセン病問題の現在について理解いただける内容となっています。

また、2月21日から3月8日まで同プラザで、ハンセン病問題を題材としたマンガ「麦ばあの島」のパネル展を開催します。

1 講演会の概要

日 時：3月5日(日)午後2時から3時30分まで

場 所：立花南生涯学習プラザ 3階ホール(栗山町2丁目25-28)

テーマ：ソーシャルワーカーとして伝えたいこと～入所者とその家族の思い～

講 師：坂手 悦子氏

定 員：先着100人

申込み：2月14日(火)より立花地域課へ電話(06-6427-7770)、FAX(06-6427-7773)

または、メール(ama-tachibanacenter@city.amagasaki.hyogo.jp)

講師プロフィール

さかて えつこ

坂手 悦子氏

大阪府生まれ。ハンセン病を知るきっかけとなったのは4歳の頃に見た映画『ベン・ハー』。高校生のとき、「大昔の話ではなく、今の日本に病気のために隔離されている人たちがいる」という現実を知って衝撃を受ける。この二つの経験が記憶に刻まれ、大学の卒業論文のテーマをハンセン病問題に決めた。大学院進学後、群馬県の療養所で入所者の聞き取り調査を行い、その後、フィリピンのハンセン病コミュニティで1年間フィールドワークを行った。平成11年より現職。



2 パネル展の概要

日 時：2月21日(火)から3月8日(水)まで

場 所：立花南生涯学習プラザ 1階フリースペース (栗山町2丁目25-28)

開館時間 午前9時から午後9時 (水曜日のみ午前9時から午後5時30分まで)

展示内容：マンガ「麦ばあの島」を題材としたハンセン病問題啓発パネル

以 上



瀬戸内に浮かぶ ある島から

3/5

(日曜日)

14:00～15:30

講演会

ソーシャルワーカーとして伝えたいこと

～入所者と家族の想い～

講師

坂手 悦子 氏

(国立療養所 邑久光明園 ソーシャルワーカー)

会場

立花南生涯学習プラザ ホール

(尼崎市栗山町2丁目25-28)

対象

どなたでも 先着100名

申込み

2/14～2/28までに、以下問合せ先に申込み

メールの場合は、件名に「ハンセン病問題講演会」

本文に「参加者氏名、連絡先」を記載のうえ、お申し込みください。

手話通訳など情報保障が必要な方は、お申し込みの際にお伝えください。



大阪府生まれ。ハンセン病を知るきっかけとなったのは4歳の頃に見た映画『ベン・ハー』。高校生のとき、「大昔の話ではなく、今の日本に病気の人がいる」という現実を知った。衝撃を受ける。この二つの経験が記憶に刻まれ、大学の卒業論文のテーマをハンセン病問題に決めた。大学院進学後、群馬県の療養所に入所者の聞き取り調査を行い、その後、フリーランスのハンセン病コミュニケーションを行った。11年より現職。

2/21(火)

～

3/8(水)

パネル展「麦ばあの島」

時間

午前9時から午後9時まで(水曜日は午後5時30分まで) ※申込不要

会場

立花南生涯学習プラザ 1階(尼崎市栗山町2丁目25-28)

チラシに使用している写真は、邑久長島大橋。

1988年(昭和63年)5月9日完成。二つの療養所がある長島と本土をつなぎ、通称「人間回復の橋」とも言われる。

それまで、長島と本土はわずか30mの距離であったが、潮の速い海峡で隔たれており、

本土への行き来は船や手漕ぎの舟を使用しなければならず、非常に不便、かつ不自由であった。

この海峡に橋を架けることは長島愛生園と邑久光明園の入所者や職員にとって長年の悲願であった。(邑久光明園ホームページから一部抜粋)